

今日のキーワード 『街角景気』は好天に恵まれ2カ月連続改善

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手やコンビニエンスストアの店長など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。4月の『街角景気』の現状判断DIは、企業動向の改善を受け、わずかながら2カ月連続で上昇しました。先行き判断DIは、前月から0.5ポイント改善して50.1と好不調の目安の50を上回りました。

ポイント1

現状判断DIは2カ月連続改善して49.0

先行き判断DIは50ポイントを回復

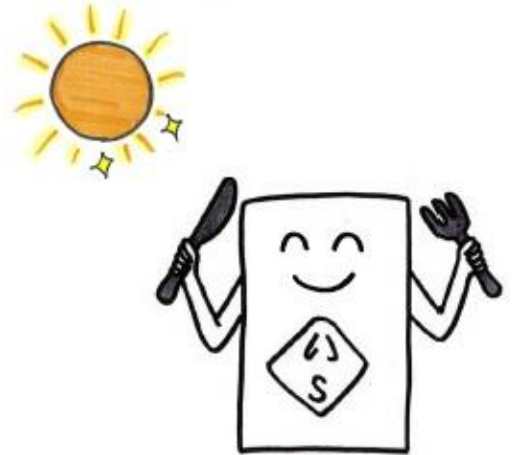
- 4月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月の48.9から0.1ポイント上昇して49.0となり、2カ月連続で改善しました。内訳をみると家計動向関連は住宅関連が悪化する一方、好天に恵まれ飲食関連が改善し、横這いとなりました。企業動向関連は製造業・非製造業共に改善しました。
- 先行き判断DIは前月から0.5ポイント上昇して50.1となりました。6カ月振りの上昇となり、景気判断の分岐点とされる50ポイントを上回りました。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全ての項目でDIが改善しました。暑い夏が見込まれることや株高・円安に転じたことが一因とみられます。

ポイント2

ウォッチャーのコメントを分析

天候要因の重石は解消

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法^(*)によると、現状判断では野菜の高騰はほぼ収まりましたが、「値上げ」に関わる単語の使用頻度は増加しており、景況感の改善の重石となっているとみられます。
- 先行きについては、通商問題に対する単語が減少、円高など資産価格に関する単語の使用頻度も落ち着いた一方で、政治に関わる単語、値上げに関する単語、人手不足に関する単語の使用頻度は高止まり、ないし増加しました。



(*) テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

今後の展開

天候や賃上げによる回復を期待

- 内閣府は、『街角景気』について「緩やかな回復基調が続いている」と基調判断を据え置きました。現状は景気に加速感はありません。一方先行きについては、気象庁の「季節予報」によれば5～7月は暑い夏が予想されていますが、「暑い夏はコンビニなどの追い風になる」、あるいは「春闘でかなり賃上げが実施されており、夏ごろにはボーナスの増加と併せて個人消費が回復してくる」などの声も出ており、好調さが見込まれる外需に加えて、内需の回復により景気が底堅さを増すことが期待されます。

ここも チェック!

2018年4月16日 『さくらレポート』は2地域で景気判断を引き上げ

2018年4月11日 『街角景気』は天候の回復から4カ月ぶり改善

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。